東京ジャーミイ金曜日のホタバ

聖なる三つの月

2011年5月27日

親愛なるムスリムの皆様。聖なる三つの月は、イスラームが神聖なるものと見なしている、イスラーム暦のラジャブ・シャアバーン・ラマダーンの月を指します。ラジャブ月のラガーイブの夜及びミーラージュの夜、シャアバーン月のベラートの夜、ラマダーン月のカディルの夜といった四つの祝福された夜がそこに含まれます。

親愛なるムスリムの皆様。預言者ムハンマドはこの三つの月に特別な重要性をおかれていました。ラジャブ月が来ると「アッラーよ、ラジャブ月とシャアバーン月を私たちのために祝福されたものとしてください。私たちをラマダーン月に至らせてください」とドゥアーをされました。シャアバーン月についても次のように語られました。「シャアバーン月は、ラジャブ月とラマダーン月の間で、人々がその価値を知らない月である。その月において人々の行いはアッラーのもとへ高められる。だから私も、断食をしている状態で私の行為がアッラーに捧げられることを好み、その月に断食をする。」

親愛なるムスリムの皆様。聖なる三つの月と神聖な夜(灯明の夜)は、崇高なるアッラーの、限りのない慈悲、恵み、赦し、慈しみを私たちしもべへと運ぶ使者のようです。

多くの場合、どのように過ぎたかもわからないほどの速度で過ごし、費やし、日々の慌しさの犠牲にしている年月の中で、ふと立ち止まり、自分たちの本髄に戻り、自らと向きあうことをとするのです。罪によって黒ずんでしまった私たちの心、いつくしみに乏しくさびついてしまった私たちの良心を、悔悟や後悔の涙で清め、けがれのない状態へとするために、私たちの前を流れていく慈悲の泉なのです。人生の道のりを終わりのラインに向かって歩いていく時、この世界が備えの場であることを認識し、真の、永遠の場である来世のために備え、わずかの時間に多くを得る時なのです。

親愛なる兄弟姉妹の皆様。聖なる三つの月は、私たちに残された時間がこれまで生きてきた時間よりもより短いものとなり得ることを認識し、善行において競うこと、何の益ももたらさないような事柄から遠ざかること、罪を遠ざけ、善行を得ることのための時です。不注意さによって閉ざされた私たちの目を真実を理解することによって開き、固まってしまおうとしている私たちの心臓をアッラーを唱念することによってやわらげ、うぬぼれによって高くそびえている私たちの頭を謙虚さによって下げ、サジュダをし、赦されるという希望をもって懇願する時なのです。

親愛なるムスリムの皆様。次々と開かれる慈悲と赦しの扉、ラジャブ、シャアバーン、ラマダーンの月を経て、精神的な救いと喜びの大祭へと至られます。大祭を祝う権利を得るためにも、聖なる三つの月のように、慕われ、希望を込めて待たれる者となりましょう。

孤児の頭を撫でる手、苦しむ心に癒しをもたらす言葉を持つ者となりましょう。身寄りのない者の支え、苦境にある者の救いとなりましょう。流れる涙を拭く者となりましょう。

灯明の夜は、闇夜を照らす星のようです。これらのうち、その慈悲が私たちにもたらされ、その光が目を射るラガーイブの夜と共に、この聖なる季節に「ようこそ」と言いましょう。私たちも共にラガーイブとなりましょう。慕われ、重きをおき、また重きをおかれる者となりましょう。被造物に対し、創造されたお方ゆえに寛容であり、人間をこの世界の宝珠、崇高なるアッラーの最も名誉ある被造物として見なし、尊重し、こちらに来ない人々のためにそのもとに出向き、私たちを尋ねることもない人を尋ね、与えようとしない人に与える者となりましょう。